

平成 27 年度 鳥取県立図書館 特別資料展

とっとり文学 の情景展



平成 27 年

■ 会 期 **11 月 5 日(木)～11 月 29 日(日)**

※会期中 11 月 12 日(木)は休館日

■ 開館時間 火～金 午前 9 時～午後 6 時 30 分

土・日・月・祝日 午前 9 時～午後 5 時

入場
無料

■ 会 場 **鳥取県立図書館 2 階 特別資料展示室**

■ 主 催 鳥取県立図書館
問い合わせ 〒680-0017 鳥取市尚徳町 101
電話 0857-26-8155 ファクシミリ 0857-22-2996
ホームページ <http://www.library.pref.tottori.jp>

豊かな自然に恵まれ、数々の歴史の舞台となった鳥取県。県内の名所を訪れた、あるいはふるさとで育った文学者はこの地をどのようにとらえ、文章で表現したのでしょうか。文学作品を通じた“情景”の魅力についてご案内します。

展示内容(作品・文学者は一例)

1 風紋なびく城下町

— 県東部が舞台となった文学 —

- 鳥取砂丘
有島武郎・与謝野晶子の歌
- 山陰海岸
島崎藤村『山陰土産』
尾崎翠『花束』『無風帯から』
- 鳥取市
尾崎放哉の句
阪本四方太『夢の如し』

2 日本屈指の温泉郷

— 県中部が舞台となった文学 —

- 三朝温泉
野口雨情『三朝小唄』
- 東郷温泉／湯梨浜町
田山花袋『日本温泉めぐり』
遠藤周作『その一言』
- 倉吉市
河本緑石の詩句

3 郷里を見守る霊峰

— 県西部が舞台となった文学 —

- 大山
志賀直哉『暗夜行路』
大江賢次『絶唱』
- 日南町
井上靖『通夜の客』
松本清張『父系の指』
- 米子市
生田春月『相寄る魂』

4 文学に描かれた現代のとっとり

県出身の文学者が発表した作品を中心に、県内各地を題材にした現在の「とっとり文学」を紹介します。

桜庭一樹『赤朽葉家の伝説』『製鉄天使』
松本薫『梨の花は春の雪』『TATARA』

5 鳥取が舞台となった文学作品

県内の地名や名所が舞台となった作品の一覧をパネルにして紹介します！近くの建物や見慣れた風景が登場するかも…

ぜひさまざまな作品に触れてみてください。

関連行事 郷土文化講演会

※参加無料・手話通訳あり

■日時 平成27年11月21日(土)
午後2時～3時30分

■会場 鳥取県立図書館 2階 大研修室

■講演 ととりの情景を描く—作家の視点から—

■講師 まつもと かおる
松本 薫 氏 (作家)

米子市在住。鳥取の風景や歴史を題材にした作品を多く発表。平成19年『梨の花は春の雪』、同23年『TATARA』で鳥取県出版文化賞。今年6月には江尾十七夜(江府町)をモチーフにした『天の螢』を発刊。

